

みなみっ子だより

子どもたちのやる気を感じました！

新年あけまして おめでとうございます。新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染が全国的に広がっている中で、皆さまはどのように新年を迎えられましたでしょうか。子どもたちは、小雨の降る中、たくさんの荷物を抱えて頑張って登校してきました。始業式では、誰一人おしゃべりをしたり、姿勢を崩したりすることもなく、最後まで一生懸命に話を聞いてくれました。その姿から、子どもたちの新年を迎えてのやる気を大いに感じました。教室の黒板には、担任たちからの熱いメッセージもあり、「よし、今年もがんばるぞ！」という意気込みが学校全体にみなぎっています。また、登校後、子どもたちの靴箱を見ると、なんとどの学年の靴箱も靴が見事に揃っていました。そこにも、子どもたちのやる気を感じられ本当に嬉しかったです。それぞれの教室では、今年一年の抱負を伝えたり、一人ひとりの3学期の目標を考えたり、冬休みのことを紹介し合ったり、「かきぞめ」を鑑賞したりしていました。笑顔いっぱいの子どもたちに出会って「教室」も嬉しそうです！子どもたちがいるだけで学校の空気が一変し、明るい空気に包まれています。本当に不思議です。私自身も、子どもたちから元気とやる気をもらいました。みなみっ子の子どもたちは、新しい年も笑顔と優しさにあふれています。



さて今年は寅年。十二支の中の3番目の干支です。寅年の「寅」という漢字は、もともと「矢」を両手で真っすぐに直し、正しくするという形からできているのだそうです。「とら」と読む以外に「つつし(む)」と読みます。「慎む」とは、よく考えて慎重に物事を進めていきたいと思いますという意味です。周りの人の気持ちを考えないで、自分の思いばかり押し通そうとすると喧嘩が起きたりして周りは嫌な気持ちになります。他の人の意見に素直に耳を傾けて「何がいけなかったのか」「何が足りなかったのか」「これからどうすればよいのか」をじっくり考えて行動していく。そういうことを大切に一年にしてほしいと思います。また寅は、たとえ逆境にあっても立ち向かう強さを持っているのが特徴です。そんな姿から、寅年では、「失敗を恐れず、色々なことに挑戦することが大切」とされているそうです。年のはじめにあたり、子どもたち一人ひとりが「今年こそは」という夢や目標をもったことだと思います。その夢や目標の実現に向けて、失敗を恐れず、何度でも挑戦する一年にしてほしいと思います。

3学期の始業式ではがんばってほしいことを、二つお話ししました。一つは、「この一年で学んだことの『まとめ』と次の学年に向けての『準備』をしよう」ということです。できないことはちっとも恥ずかしいことではありません。でもどうせできないからとあきらめたり、できないことをそのままにしたりしないで、しっかりコツコツと復習をしたり練習をしたりして新しい学年に備えてがんばってほしいと思います。二つ目は、「『ありがとうの気持ち』や『思いやりの気持ち』」を言葉や態度で伝えよう」ということです。「ありがとう」や「思いやり」の気持ちは心で思っているだけでは、なかなか相手に伝わりません。例えば一年間、登下校を見守ってくださった地域の方々に「おはようございます」「かえりました」と、笑顔で挨拶をすることで、「ありがとう」の気持ちがきっと届くと思います。トイレのスリッパを揃えたり、ぞうきんやほうきなどをきちんと揃えたりすることで、次に使う人への「思いやり」の気持ちが伝わります。一年間お世話になった教室。次の学年の人が気持ちよく過ごせるように、「ありがとう」の気持ちを込めて掃除をがんばってほしいと思います。心は目には見えないけれど、言葉や態度で、「ありがとう」や「思いやり」の気持ちをしっかり伝えていける3学期にしてほしいと思います。



地域の皆さん、いつも登下校の見守りをしてくださってありがとうございます。

岡山北警察署の見学に行ってきました！3年生（12月16日）

3年生が社会科の学習で、岡山北警察署に見学に行ってきました。見学の前には、事前学習ということで、北署の方が来てくださって警察の仕事について話をしてくださいました。お話を聞いた後、少しでも交通事故が減るようにと、ドライバーの方に向けて手紙を書きました。この手紙は、運転免許センターにおいて事故防止のチラシとともにドライバーの皆さんに手渡して下さったそうです。また、子どもたちのメッセージを添えたタペストリーを作り、岡山北警察署へ贈呈しました。このタペストリーは、しばらく署内に飾って下さったそうです。北警察署では、鑑識体験（指紋をとる）やパトカー、白バイにも乗せてもらって有意義な時間を過ごすことができました。



お飾りづくり（12月27日）

12月27日に図書館開放行事で、恒例の「お飾りづくり」をしました。今年は御津地域の「お正月研究会」の方に来ていただき、お飾りの作り方を教えていただきました。よい藁を選び、水につけ、木づちで打って柔らかくし、縄を編んでいきます。毎年参加している高学年はさすがとっても上手で、手際よく編んでいきます。小さい学年の子は、先生やおうちの方に教えてもらいながら頑張ってお飾りを作っていました。私も、今年はお手伝いだけでなく、自分も挑戦してみました。

昔から、毎年お正月には「歳神様」と呼ばれる神様が各家庭へ訪れると言われていました。歳神様は特定の宗教による神様ではなく、その年の福や徳を司る「歳徳神」や祖先の霊、穀物の神といったいくつもの神様がひとつにまとめられ、民間信仰として伝わってきたのだとされています。家の門や玄関につけられるお飾りは、神社で見られるしめ縄と同じように、神様が宿る場所の印です。災厄を払うものとも言われ、伊勢地方などでは素戔鳴尊が当地を訪れた際の民話とともに、一年中お飾りをつける慣習が残っているそうです。こうした日本の伝統文化を伝えていく機会をこれからも大事にしていきたいと思えます。

